

〈目 次〉

御礼 日本精神衛生学会第39回大会を終えて……………1
第40回大会のお知らせ……………2
第39回大会に参加して……………2
大会に参加して……………3
2024年 理事・常任理事一覧……………4
2024第1回(新)理事会議事録概要……………5



御礼 日本精神衛生学会第 39 回大会を終えて

日本精神衛生学会第 39 回大会 大会長
上別府 圭子(国際医療福祉大学大学院)

多くの大会長の先生と同じく、大会を終えてほっとしました。正に大きな荷物を降ろした感じです。学会を作ってくださった土居健郎先生や、大会を気にしてくださりながら会期前の 9 月に天に召された高塚雄介先生に、僅かでも恩返しできたかなと思うと嬉しいですね。全ての関係者の皆様に、感謝の気持ちでいっぱいです。

ベテラン揃いのプログラム委員会に企画していただき、類まれな計画性と実行力をもつ高下梓事務局長(松本看護大学看護学部)の指揮のもと、多彩な才能あふれる運営委員会と、辛い所に手が届くような実行委員会に、準備と当日の運営から後片付けまでをしていただきました。理事の先生方には、演題の査読や、当日の司会などにご尽力いただきました。会員の皆様には、演題の発表や大会そしてディスカッションへの参加の形でご協力いただき、ありがとうございました。

一般演題 13 題は、「8050 問題」など大会テーマ「家族と個人」に関連したトピックも多く、意欲的な演題ぞろいでした。この中から、梅林秀行さん(北海道科学大学保健医療学部看護学科)ほかが発表された「地域在住の精神障害者における就寝前のネガティブな気分と夜間の睡眠の影響関係 ―日常生活下における経験サンプリング法による検討―」に優秀演題賞が授与されました。ますますの研究の発展が、楽しみです。

非会員の方から、「この学会に初めて参加してみて、どの職種にも関係の深いテーマが取り上げられていました。病院のみんなに知って欲しくて、今、抄録集を回覧しています(脳卒中の回復期病棟勤務の看護師)」といった後日談の感想もいただきました。私自身、精神衛生は多職種に共通の課題であることを再認識いたしました。末筆になりましたが、多大な支援をくださった影山隆之理事長に、心より感謝申し上げます。



お疲れさまでした～！ 感謝をこめて

第40回大会のお知らせ

大会長： 中野 良吾 (創価大学)
会 期： 2024年12月14日(土)・15日(日)
会 場： 創価大学(東京都八王子市)

次号ニューズレターで詳細をお知らせいたします。

第39回大会に参加して

村山 志保(国際医療福祉大学大学院)

2023年12月2日(土)、3日(日)にWeb開催された、日本精神衛生学会第39回大会に参加いたしました。新入会員として初めて参加させていただき、学際的で、タイムリーなプログラムに、多くの刺激を受けました。大会冒頭の、上別府圭子先生による会長講演は、「わたしたちのライフサイクルとケアの仕事、精神療法過程など」というテーマでのお話でした。看護職、また、家族看護学研究に携わる者として、自分自身の仕事とライフサイクル上の出来事とが影響し合ってきたこれまでの過程を振り返る機会となり、日々悩み、試行錯誤してきた経験にもきっと意味がある、と、寄り添っていただいたような感覚になりました。

各講演やシンポジウムも、いずれも「今、学べてよかった」と感じる内容ばかりでした。1日目午後の委員会セミナー「こころの不調を抱える親と子どもの成長」では、上野里絵先生、北野陽子先生より、絵本を通して子どもを支援する活動について、貴重なお話を伺うことができました。先生方がご紹介くださった絵本がとても素敵で、ぜひ自分も実際に手に取って読んでみたいと感じるとともに、支援を必要とする子どもと家族がこれらの絵本を手にとれるよう、先生方の活動が今後一層広がっていくことを願わずにはいられませんでした。

また、イブニングセミナーとして行われた事例研究では、小学校の特別支援学級での事例のセッションを聴かせていただきました。講師の中野真也先生より、支援者として家族とかかわる際のジョイニングのお話があり、ジョイニングについては頭では理解しているつもりでしたが、事例を通して、この技法が家族とかかわる際の基本としていかに重要であるかをあらためて考えさせられ、大きな学びとなりました。

2日目の武井麻子先生による特別講演「思いやる心は傷つきやすいケアする者へのケアの必要性」では、コロナ禍における医療者など対人援助職のおかれていた状況と二次的外傷性ストレスについて深く学ぶことができました。続くシンポジウム③「今、支援者のメンタルヘルスを守るためにできること」も、とても心に響く内容でした。なかでも、リエゾン精神看護専門看護師の蜂須賀智子先生による、コロナ禍の医療現場で非常に大きなストレスに晒されながら勤務した看護師の姿と、先生ご自身がリエゾナーズ、そして看護師長としてスタッフのメンタルヘルスを守るため尽力されたご経験についてのお話は胸に迫るものがありました。同時に、武井先生のご講演でも指摘されていたように、日本でも対人援助職のメンタルヘルスについて、人々がもっと関心を寄せ、米国の「ローナ・ブリーン医師医療従事者保護法」のように公的な支援が行われる必要があると強く感じました。

今大会では、新参者ながら、大会長の上別府先生とのご縁により、大会の企画・運営のお手伝いもさせていただく機会がありました。プログラム委員や運営委員の先生方がたいへん熱心に、またクリエイティブにお仕事を進めていかれる様子に感銘を受け、そのような面でも非常に勉強になる大会参加でした。

次回の第40回大会は、対面での開催を予定されていると伺っております。今回はオンラインで拝聴した先生方のご講演やご発表を、次回は直接お聴きできると思うと今からわくわくしています。また今回、このような参加記を書く機会をいただき、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

大会に参加して

第39回大会運営委員

平田 茜(明星大学ユニバーサルデザインセンター)

2023年12月2日・3日、日本精神衛生学会第39回大会が開催されました。家族看護を長年のご専門とされてきた上別府圭子先生が大会長を務め、「家族と個人」を主題として掲げた本大会は、400名を超す申し込みをいただくことができました。運営サイドでは「これだけの人数をお迎えするには工夫が必要だ!」となりまして、過去の大会を参照しつつ、万一のためにYouTubeでライブ配信できるようにするなど、新機能を搭載してお迎えしました。諸々の準備をしておりましたが、不手際でご迷惑をかけた場面もありました。温かくお見守りくださった皆様に感謝申し上げます。

私は普段は大学に勤務し、障がいを持つ学生の修学支援に携わっています。学習環境や学び方の調整といった修学のコーディネーターが主な業務ですが、同時に、大学という場を使って何を得たいか、そのためには障がいとどのように付き合うかといった、学生が自分自身の在り方を考えていくことの手伝いをすることもあります。個人が自己を掘り下げ、その生き方を決めていく時、それぞれの家庭の歴史、自身と家族の互いへの思いや願いが出てきます。また、家庭の安全・安心に守られる学生がいる一方、難しい問題に苦しむ家庭で奮闘する学生もいます。

どのプログラムも興味深く拝聴しましたが、「シンポジウム①子どもと家族の安全・安心と成長」では、児童虐待、家族看護、小児期発症慢性疾患の成人移行における実践をうかがうことができ、携わる領域や役割は異なりますが、自身の仕事を考えさせられる点がいくつもあり、特に印象に残りました。

「親であることが大変なのだ」というメッセージを受け取った時、敬意をもって、深く広い背景を理解しようと努める姿勢で臨んでいるだろうか。本人や家族が少なからず経験した・するであろう喪失と、再生についてアセスメントし、同じ歩調で支援できているだろうか。冬休み明けの職場で、そう言った問いかけをしながら業務にあたっています。また、小児期発症慢性疾患の成人移行については、恥ずかしながら、詳細を知らずにいました。ご紹介のあったパンフレットで、移行期医療支援において、医療支援、成人診療科との連携だけでなく、患児のヘルスリテラシー(自分の病状や治療を理解し人に説明できる、健康を管理できること等)を育てる支援の両輪で行われていることを知りました。まさしく児童から成人となる時期に関わる身として当然知っていなければならなかったことで、宿題をいただいたと思い、同僚を巻き込んで学んでおります。

大会を思い出しながらこのニュースレターを書きつつ、参加者の皆様がそれぞれのミッションに取り組んでいる姿を思い浮かべています。次回の第40回大会は創価大学(中野良吾大会長)で開催となります。また皆様にお会いできることを楽しみにしております。

2024年 理事・常任理事 一覧

● 理事長	影山 隆之	● 副理事長	中野 良吾	● 事務局長	馬淵 麻由子
● 編集委員長	酒井 佳永	● 広報委員長	西村 靖史		
● 常任理事	飯田 昭人 菅野 恵 贄川 信幸	大西 守 酒井 佳永 西村 靖史	影山 隆之 高下 梓 福島 眞澄	上別府 圭子 津川 律子 馬淵 麻由子	加藤 純 中野 良吾 真船 浩介
● 理事	安保 寛明 大西 守 上別府 圭子 黒岩 誠 津川 律子 西村 靖史 馬淵 麻由子	飯田 昭人 大宮 秀淑 加藤 純 酒井 佳永 中野 明德 早川 東作 真船 浩介	鉅鹿 健吉 影山 隆之 菅野 恵 高下 梓 中野 良吾 平田 茜 丸山 総一郎	大島 巖 樫木 啓二 城戸口 親史 武井 麻子 永井 尚志 福島 眞澄 元永 拓郎	大辻 隆夫 狩野 武道 倉島 徹 田中 秀樹 贄川 信幸 船越 明子
● 監事	岡本 淳子	重村 朋子			

(五十音順・敬称略)

2024年 第1回(新)理事会 議事録概要

日時 :2023年12月15日(金)19:00-20:00

会場 :オンライン(Zoomミーティング)

出席 : (敬称略、順不同) 24名

安保 寛明	鉅鹿 健吉	大島 巖	大西 守	大宮 秀淑	影山 隆之
樫木 啓二	菅野 恵	城戸口 親史	倉島 徹	黒岩 誠	酒井 佳永
高下 梓	津川 律子	中野 明德	中野 良吾	西村 靖史	早川 東作
平田 茜	福島 眞澄	馬淵 麻由子	真船 浩介	丸山 総一郎	元永 拓郎

欠席 :8名(委任状4通)

【審議事項】

1. 2024年 新理事の選出

理事の互選により、影山隆之理事が新理事長に選出された。

2. 2024 年 新理事会体制について

1) 理事長推薦理事

・影山新理事長より、加藤純先生および永井尚志先生が理事に推薦され、承認された。

2) 常任理事（副理事長、事務局長）

・副理事長に中野良吾理事、事務局長に馬淵麻由子理事が推薦され、承認された。

・常任理事に、前期の常任理事および、あらたに飯田理事（第 41 回大会大会長）、高下理事、真船理事、贄川理事が推薦され、承認された。

・丸山理事より常任理事の辞退の申し入れがあり、理事長によって承諾された。

3) 各種委員会および研修等の担当理事

① 編集委員会（委員長: 酒井理事）

・委員長は引き続き酒井理事が担当することとなった。今後に向けての体制強化のため協力いただきたい。

② 研修会・講習会・ワークショップ（担当理事: 加藤理事・福島理事）

・加藤理事、福島理事が引き続き主担当となり、高下理事、平田理事が協力することとなった。

③ (新設) 広報委員会（委員長: 西村理事）

・広報委員会が新設され委員長に西村理事が就任した。委員として菅野理事、高下理事、永井理事、平田理事が推薦され、承認された。

4) 監事(2名)

理事長から、重村朋子先生、岡本淳子先生が推薦され、両先生に依頼することとなった。

【報告事項】

3. 第 40 回大会について(2024 年度)

大会長: 中野 良吾 (創価大学)

会 期: 2024 年 12 月 14 日(土)、15 日(日)

会 場: 創価大学(東京都八王子市)

テーマ: 未定(若者のメンタルヘルスについて)

4. 第 41 回大会について(2025 年度)

大会長: 飯田 昭人 (北翔大学)

会 期: 未定

会 場: 未定(北海道札幌市)